

輸送調査の結果（概要）

（1）調査実施日及び調査対象

- ①実施日：平成20年7月28日～8月7日
- ②調査対象：モモ（白桃）、ブドウ（ピオーネ、オーロラブラック）
- ③輸送ルート：岡山ー〈トラック〉→成田空港ー〈飛行機〉→タイ空港ー〈トラック〉→店頭

（2）調査の内容

- ①輸送環境の実態調査
出荷箱に衝撃振動計測器を入れ、出荷時から店頭までの荷物への衝撃度等を計測した。
- ②荷傷み軽減試験
荷姿や緩衝材の量など、出荷形態を変えて荷傷みの程度を比較した。
- ③鮮度保持試験
給水キャップや防湿箱による鮮度保持の効果を調査した。

（3）調査の結果

- ①輸送環境の実態調査
トラック及び飛行機での積み降ろしの際の衝撃が大きく、バラ積みの輸送はパレット積みの場合と比べて倍以上の衝撃を受けていた。
- ②荷傷み軽減試験
フルーツキャップを二重にしたりエアーマットを利用するなど、通常の場合より緩衝材を多くし、箱内部の果物が動かないようにすることで、荷傷みが軽減されることが明らかとなった。
(荷傷み率の例：ピオーネ 通常梱包・・・約10%→緩衝材増量・・・0%)
- ③鮮度保持試験
ぶどうの果軸に給水キャップを取り付けると、日数経過による減耗等が少なく、鮮度保持に有効であることが分かった。



←衝撃振動計測器の設置



←給水キャップ処理



↑パレット・ラッピング処理